付録編

（1）津軽デジタル風土記プロジェクト関連新聞記事

①「東奥日報」二〇一七年七月一二日（水）朝刊（東奥日報社提供）

歴史資料に津軽の魅力

弘大と国文研 デジタル化、公開へ

15日に覚書締結、記念講演

古典籍をデジタル公開し、歴史資料の中から地域の新たな魅力を発掘しようと、弘前大学と、国文学の文献を広く収集・調査する国文学研究資料館（東京）は本年度から共同で「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクトに取り組む。15日に弘大創立50周年記念会館みちのくホールで、プロジェクト推進に関する覚書を交わし、弘大名誉教授の長谷川成一氏と同資料館長のロバート・キャンベル氏による記念講演会を開く。（太田佳希）

15日に行われる締結式と記念講演の案内チラシ

プロジェクトは、全国に先駆けたモデル事業。津軽の人々の多彩な思想や生活世界が記されている歴史資料をデジタル化し、専用のウェブサイトで情報を体系的にまとめ、観光資源などに役立てるという。研究には多くの資料を所蔵する弘前市教育委員会と県立郷土館も協力する。

研究代表者の瀧本壽史・弘大教職大学院教授は「ウェブ上で所蔵先の異なる関係資料を結び付けたり、資料の中に分散している記述をつなぎ合わせたりすることで、新しい津軽を見いだせる。歴史資料の中から地域の魅力を創出するモデルとなるシステムをつくりたい」と語る。

15日は覚書締結式などを午後1時から、記念講演を午後2時から行う。長谷川氏が「森林資源の活用から見た近世津軽―白神山地・岩木川・弘前城下―」、キャンベル氏が「『弘前藩庁日記』に刻まれた江戸のリアリティ」と題して講演する。入場無料。事前申し込みは不要だが、先着250人まで。

問い合わせは、弘大教育学部総務グループ内「津軽デジタル風土記」講演会係（電話0172㊴3325）へ。

「歴史資料に津軽の魅力弘大と国文研　デジタル化、公開へ　15日に覚書締結、記念講演」

＊これらの画像は、本書に限って東奥日報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

弘大と国文研が「風土記」構築へ

津軽の歴史 デジタル化

資料を観光資源に
あす覚書締結、講演会も

15日には覚書の締結記念講演会が開かれる

弘前大学は国文学研究資料館（東京都）と共同で「津軽デジタル風土記」の構築に今年度から取り組む。県内の各機関に分散して所蔵されている津軽に関する歴史資料をデジタル化し、体系的に連結・一体化して発信するもので、文献が持つ地域情報を地域資源・観光資源として活用につなげる。15日には、同大創立50周年記念会館でプロジェクトの覚書締結と、弘前大学名誉教授の長谷川成一氏、国文学研究資料館長のロバート・キャンベル氏による講演会が行われる。（西尾瑛）

プロジェクトには、県立郷土館、弘前市立図書館・博物館も資料提供などで参加・協力。国文学研究資料館と行う全国に先駆けたモデル事業であり、歴史資料の保存に向けたデジタル化が進み、情報の連結や検索の可能性が広がる中、文献の持つさまざまな要素に付加価値を与えることで地域資源として活用できるものを見いだしていく「文献観光資源学」が近年注目を集める中での取り組みとなる。

津軽地域では今年度までに、新編弘前市史や新青森市史、黒石市史、青森県史などの自治体史が編さんを終了している。これらの編さんを通して新たに発掘・収集された資料も多く、おのおので公開・活用のためのデジタル化の動きも進んでおり、プロジェクトはこうした動きの後押しにもつながる。

プロジェクトは「本州最北端の風土記」をコンセプトに、そこに生きた人々に視点を当てる。現在の想定では、絵図類を導入として大きく「津軽・北の思想と言説世界」「津軽・北の自然と生活世界」の二つの空間にまとめる。さらにそこから▽藩主・藩士の知▽学問と文芸▽祭礼と芸能▽信仰と宗教―などのテーマごとに資料を関連させていく。

プロジェクトを進める弘前大学教職大学院の瀧本壽史教授は「歴史資料を今に生かす取り組み。今回のプロジェクトで文献は多様な価値を持ってくるだろうし、多面的に津軽のさまざまな部分を見いだすことができると考えている」と話した。

15日は一般市民にも公開しており、午後1時から覚書の締結式、午後2時からは長谷川氏、キャンベル氏の講演会が開かれる。定員は250人。

「弘大と国文研が『風土記』構築へ　津軽の歴史 デジタル化資料を観光資源に　あす覚書締結、講演会も」

＊これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

津軽の文化 世界に発信

「デジタル風土記」構築へ弘大、国文研

文献活用で5者が覚書

弘前大学と国文学研究資料館（東京都）が取り組む「津軽デジタル風土記」構築プロジェクトに関する覚書締結式が15日、同大創立50周年記念会館で開かれた。文献を地域資源・観光資源としての活用につなげ、津軽の歴史と文化を世界に発信しようとするもの。同資料館長のロバート・キャンベル氏は「弘前は豊富な文化資源に加えて、文献を生きる資源として活用する研究者の層が厚い。（プロジェクトの）結実に向けて力を貸していただきたい」と語った。（石田紅子）

締結式は一般公開され、同大教育学部、人文社会科学部のほか、資料提供などで協力する弘前市教育委員会と県立郷土館の5者の代表者が出席。市民らが見守る中、覚書に調印した。

この後記念講演が行われ、同大名誉教授の長谷川成一氏とキャンベル氏がそれぞれ登壇。長谷川氏は藩政時代に見られた薪材の伐採と川を利用した輸送システム「流木（なかしぎ）」の変遷から、森林資源と藩政の密接な関係を説いた。キャンベル氏は江戸に派遣された弘前藩士の生活の記録などから周辺の人々の動静までを解説し、文献の価値を浮かび上がらせた。

講演後の記者会見でキャンベル氏は、同大と共同した理由について「以前から弘前市立図書館の資料を研究していて信頼関係がある」とし、「文献にコミットするなど、青森の人の文化財に対する姿勢は大変ありがたいもの」と語った。

同大は今後3年間でプロジェクトを進める方針で、同大教職大学院の瀧本壽史教授は「デジタル化する資料は2万点くらいを考えている。調査対象となる資料はその10倍の数になるだろう」と話した。

「津軽の文化 世界に発信 『デジタル風土記』構築へ 弘大、国文研 文献活用で5者が覚書」

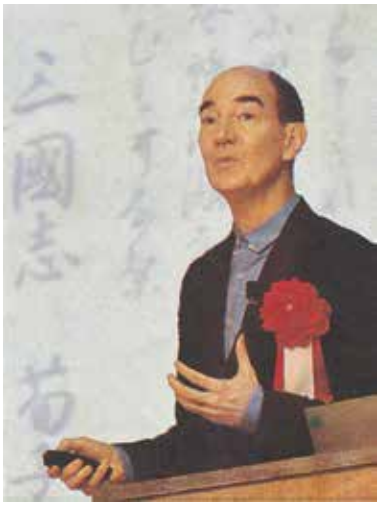
＊これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

④「東奥日報」二〇一七年七月一六日（日）朝刊（東奥日報社提供）

津軽デジタル風土記の構築

弘大、国文研など覚書

キャンベル氏ら記念講演



津軽関連の文献の映像を前に記念講演するロバート・キャンベル館長

弘前大学や人間文化研究機構国文学研究資料館（東京都、ロバート・キャンベル館長）などの共同事業「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクトの覚書締結式と記念講演会が15日、同大創立50周年記念会館みちのくホールで行われ、約250人の市民や関係者が、一大システム構築のスタートを祝った。

事業は3年間で実施。デジタル化した津軽の古典籍約2万こまをウェブ上で集大成し公開する。

サイトは「思想と言説世界」「自然と生活世界」の二つの大きなテーマに「学問と文芸」「祭礼と芸能」など計八つの小テーマをぶら下げ、そこに「津軽一統志」などの文献や、国絵図などさまざまな古典籍を結びつけて構築する。見る人が興味や関心に応じて奥深く分け入っていくための道筋を付ける。

キャンベル館長、弘大教育学部の戸塚学学部長、同人文社会科学部の今井正浩学部長、弘前市教委の佐々木健教育長、県立郷土館の山田勝規館長が覚書に調印し、取り交わした。

記念講演では同大の長谷川成一名誉教授が、白神山地の森林資源を弘前城下の燃料とするため、岩木川の水運を利用し大量に伐採・運搬した「流木（ながしき）」を巡る考察を、数々の史料を基に展開。

キャンベル館長は、江戸の昌平坂学問所に留学していたある津軽藩士らが巻き込まれた、留学者同士の殺傷事件を紹介。同藩士が事件を克明に記録した書状が、殺された被害者の国元である佐賀藩の藩日記に転写され残っていることを指摘した。2人は、文献の森が内に抱く歴史再現のダイナミズムと、その探訪の魅力を存分に披露した。

キャンベル館長は記者会見で「津軽は文献が豊富で、それをきちんと伝承、活用している研究者や市民も多くいる。良き結実に向け力を結集したい」と強調した。（外崎英明）

「津軽デジタル風土記の構築　弘大、国文研など覚書　キャンベル氏ら記念講演」

＊これらの画像は、本書に限って東奥日報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

⑤「陸奥新報」　二〇一八年六月二五日（月）（陸奥新報社提供）

武者絵の変遷も解説

貴重な歴史資料を見ながら、地域の歴史や文化を学んだ出前講座

ひろさき検定10周年記念
デジタル風土記で学ぶ

弘前観光コンベンション協会は23日、津軽ひろさき検定の開催10周年を記念した「津軽デジタル風土記プロジェクト出前講座」を弘前市立観光館で開いた。参加者約100人は藩政時代の絵図や文献など貴重な歴史資料を見ながら、津軽の歴史と文化を学んだ。（齊藤雅也）

弘前大学と国文学研究資料館（東京）が共同で進める同プロジェクトは、津軽の歴史資料をデジタル化し、観光資源などで活用しようという取り組み。

講座は①津軽の中の弘前②武者絵ウオッチング③お殿様の教養―の3部構成。このうち②では、国文学研究資料館の木越俊介准教授がねぶた絵の原型ともされる武者絵の変遷などについて解説した。

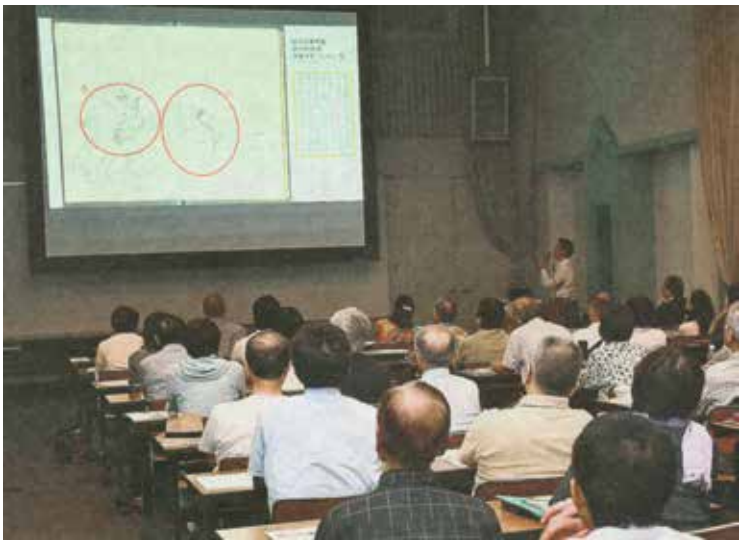
木越氏は「平家物語」「源平盛衰記」に登場し、ねぶた絵の題材にも用いられる「巴御前」を取り上げ、「（日本画は）描かれる人物、場面などの画題ごとにパターンが決まっている」と説明。「書き継がれる中で画題に必要不可欠な要素が決まってきた。こうした決まり事を理解した上で描くと、作品に深みが出るのではないか」と指摘した。

「ひろさき検定一〇周年記念　デジタル風土記で学ぶ」「武者絵の変遷も解説」「貴重な歴史資料を見ながら、地域の歴史や文化を学んだ出前講座」

＊これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

歴史資料で津軽学ぶ

デジタル風土記プロジェクト



貴重な歴史資料を基に、津軽の歴史や文化を学んだ講座

弘前

弘前市のご当地検定「津軽ひろさき検定」10周年を記念し、検定を主催する弘前観光コンベンション協会は23日、市立観光館で「津軽デジタル風土記プロジェクト出前講座」を開催した。参加者約100人が、絵図や文献など貴重な歴史資料を基に、津軽の歴史や文化を学んだ。（三浦康平）

出前講座に100人興味津々

同プロジェクトは、弘前大学や人間文化研究機構国文学研究資料館（東京都）などの共同事業で、津軽に関する歴史資料をデジタル化し、ウェブ上で公開することで観光資源などとして活用する計画。

講座は3部構成で、瀧本壽史・弘前大学教職大学院教授は「津軽の中の弘前」と題し、弘前市立図書館などが所蔵する絵図や地図を参考に近世における津軽、弘前の位置付けなどを解説。木越俊介・国文学研究資料館研究部准教授は、ねぷた絵の原型である武者絵について解説。巴御前を例に挙げ「（状況や場面など）その人物を描くときのパターンがある。描き継がれる中で必要不可欠な要素が決まってくる」とした。

渡辺麻里子・弘大人文社会科学部教授は「お殿様の教養」と題し、弘前藩3代藩主・津軽信義が江戸から弘前までの道中で地名を織り込んで詠んだ和歌集「信義公御詠歌自筆」などについて解説した。

参加者たちは真剣な表情で講義を聴き、ノートを取っていた。弘前観光ボランティアガイドの会の佐藤光麿さん(61)は「瀧本教授の講座で、新寺町の形成や侍屋敷の有無などで絵図や地図の時代が分かることを知り勉強になった。ガイドにも生かせそう」と話した。

「歴史資料で津軽学ぶ」「デジタル風土記プロジェクト」「出前講座に一〇〇人興味津々」「貴重な歴史資料を基に、津軽に歴史や文化を学んだ講座」

＊これらの画像は、本書に限って東奥日報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

弘高ねぷたに〝援軍〟

国文研・木越准教授 元絵の写し寄贈

「古典学び、新たな創造を」

急ピッチでねぷた制作を進める弘高生たち＝13日午前

弘前の街にねぷたの季節到来を告げる、弘前高校の伝統行事「弘高ねぷた」。生徒たちの意気に感じ、東京の古典籍の研究者が一役買おうと、ねぷたの元絵となっている江戸時代の古典籍の写しのつづりを全クラス分、同校に寄贈した。生徒たちは感謝を胸に、18日の運行に向けて制作作業の真っ最中だ。（外崎英明）

資料を寄贈したのは、国文学研究資料館（東京都立川市）の木越俊介准教授＝顔写真。江戸時代後期の絵入りの小説本の研究をしていた木越さんは偶然、弘高のホームページに行き当たり、弘高ねぷたのことを知ったという。共に、津軽の古典籍のデジタルアーカイブ「津軽デジタル風土記」の構築に当たっている、元弘高校長で弘大大学院教育学研究科の瀧本壽史教授に、自身も弘高生としてねぷたを作ったという話も聞き「地域とともに歩んできた歴史の深さと、高校生特有の熱気に感銘を受けた」という。

当初は「生徒たちと一緒に何かしたい」と考えたという木越さん。しかし、弘高が伝統的に、生徒の自治意識を重んじていることを知り「旧制中学の良い気風が残っている。さらにいいな、と思った」といい、生徒たちを資料で側面から支援する形をとった。

木越さんは6月下旬、弘前での講演に招かれた際、瀧本さんと弘高に立ち寄り、曲亭馬琴作、葛飾北斎画「新編水滸画伝」の画像をプリントアウトしたつづりを予備も含め20部、寄贈した。九紋龍史進、花和尚魯智深など、ねぷた絵でおなじみのキャラクターが生き生きと描かれている。瀧本さんも、北斎などを元絵に描いたねぷた絵の巨匠・竹森節堂の草稿をまとめた、弘前市立博物館発行の冊子を全クラス分寄贈した。

「伝統的な画題が、江戸時代以降、どのように描かれてきたかを学ぶと、古典が面白くなるし、逆に新たな創造も生まれると思う」と木越さんは期待を寄せる。

弘高生徒自治会でねぷたを担当する石村改さん（3年）は「ねぷた絵の原型であり、歴史ある絵だと思う。特徴を学び、迫力あるねぷた作りに活用できれば」と話していた。

木越さんが寄贈した「新編水滸画伝」の写し

弘高ねぷたは18日午後6時半に弘前市新寺町の学校を出発し、一番町、土手町などを経由して学校に戻るコースを、全クラスの18台が運行する。例年通り、運行後の有償譲渡先も募集している。問い合わせは同校（電話0172㉜0251）へ。

＊これらの画像は、本書に限って東奥日報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

「東奥日報」 二〇一八年七月一四日（土） 朝刊
「弘高ねぷたに”援軍”」「国文研・木越准教授　元絵の写し寄贈」「古典学び、新たな創造を」

北斎の絵→ねぷた見送り絵

継承の過程 楽しんで

絵師・川村さん あすから弘前で企画展

デジタル技術活用 弘大など推進

弘前大学と国文学研究資料館（東京都）が2017年度から進めている共同事業「津軽デジタル風土記」の一環として、弘前市のねぷた絵師川村伸明（号・岩山）さんが「ねぷた見送り絵リブート（再起動）！」展を4～6日、弘前市のギャラリー森山で開く。川村さんが描いた見送り絵を展示し、その場で「風土記」のデジタルアーカイブ上にある葛飾北斎の元絵と見比べながら楽しむ企画で、デジタルコンテンツの立体的な活用法として注目されそうだ。（外崎英明）

瀧本さん㊧の研究室で作品を手にする川村さん

「津軽デジタル風土記」は、津軽に関する歴史資料をデジタル化し、文献資料が持つ地域の歴史や文化に関する情報を公開することによって、地域資源・観光資源として活用していく狙いで進められている。

ねぷた絵は伝統的に、北斎やその弟子ら江戸時代の絵師たちが描いた「三国志」「水滸伝」など伝奇小説の挿絵などを元絵として描かれてきた。

川村さんが手にする絵の元絵となった「小栗外伝」二編（1814年、小枝繁作）の北斎の挿絵。デジタルアーカイブに収録されており、会場ではＱＲコードで検索できる（瀧本さん提供）

川村さんは1年かけて、約30枚の見送り絵の色紙画を描きためた。会場に展示される絵には一枚一枚にＱＲコードを付し、スマートフォンなどを使って北斎が描いたそれぞれの元絵を検索できる。

今回の展示は、絵画が継承されていく過程を、デジタルの力で再現する試み。北斎の元絵が、その世界観を保ちつつも彩色などで内容を刷新した川村さんの絵へと「再起動」するイメージだ。

川村さんは「ねぷた絵は常に温故知新。北斎を元絵にライフワークとして描き続けていきたい」と意欲を見せている。

デジタル風土記プロジェクトの代表で、弘大教職大学院の瀧本壽史教授は「ねぷたを活用した発信という形は、史料を一般に還元していくというデジタル風土記の使命にも合致している」と話している。

時間は午前10時から午4時で、入場無料。アンケートへ記入した人に川村さんの絵のポストカードをレゼントする。

東奥日報」 二〇一九年一〇月三日（木）朝刊
「北斎の絵→ねぷた見送り絵、継承の過程楽しんで」
https://www.toonippo.co.jp/articles/—/256526
（上記の共同通信版　https://www.47news.jp/localnews/4067428.html）

＊これらの画像は、本書に限って東奥日報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

展覧会・展示会情報

10月

弘前市（市外局番0172）

■市立郷土文学館（☎37・5505）
・太宰治生誕110年記念展―太宰治と弘前（～12月28日）
・青森県郷土作家研究会60周年（～31日）

■市立博物館（☎35・0700）
・光ミュージアム近現代日本画の軌跡（～11月4日）

■市立百石町展示館（☎31・7600）
・第49回溪心展　刻しむ押花作品展（12～20日）

■弘前文化センター（☎33・6571、15日休館）
・吉沢せつえ第1回個展油絵（17～19日）
・第40回県高校総合文化祭・文芸部門（25～27日）
・グループ秋色　手作り三人展（28～30日、裂織、フラワーペイント、陶芸）

■鳴海要記念陶房館（☎82・2902、火曜日休館）
・季節の移ろいを楽

文化祭・美術部門（25～27日）
・弘前市民文化祭盆栽展（3～6日）
・第22回国土社美術展覧会（12～14日）
・第40回県高校総合（4～6日）

・第54回キヤノンフォトクラブ弘前写真展（11～13日）
・盛龍展―画歴45周年記念―（19～20日）
・中弘若竹の会作品

■NHKギャラリー（☎32・5411）
・第11回刻虫会展

「ねぷた見送り絵リブート！」展（4～6日、弘前・ギャラリー森山）　国文学研究資料館、弘前大学などによる「津軽デジタル風土記」プロジェクトの一環。川村岩山さんが描き起こしたねぷたの見送り絵と、200年余り前に描かれた葛飾北斎らの原画のデジタル画像を見比べられる。掲載画像は川村さん画「三勝」（左）と、元絵の北斎画「三七全伝南柯夢」（国文学研究資料館蔵）

＊これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

見送り絵の出自たどる

弘前で「ねぷたリブート！」展

北斎らの元絵画像も紹介
デジタル資料を活用

浮世絵師・葛飾北斎らが描いた挿絵のデジタル画像と、それを基に弘前市のねぷた絵師・川村岩山さん(64)が手掛けた見送り絵を紹介する「ねぷた見送り絵リブート！」が4日、同市のギャラリー森山で始まった。国文学研究資料館（東京都）や弘前大学教育学部など5機関で推進する「津軽デジタル風土記」プロジェクトの一つで、展示会を通しデジタル資料の活用法や可能性を探る。（一戸崇矢）

「ねぷたの文化や歴史への理解を深めて」とPRする（左から）川村さん、木越さん、瀧本さん

プロジェクトは弘前市立図書館、弘前市立博物館などが所蔵する歴史・文化資料をデジタル化し、観光資源として利活用することを目的にしている。

会場には北斎画「妖婦 梢」や歌川豊国画「滝夜叉姫」などを基に川村さんが手掛けた30点を展示。解説板にあるQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、元絵の画像が出てくる。企画者で同資料館准教授の木越俊介さん(45)は、ねぷたに北斎らの絵が使われていたことに触れ「ねぷたの中には出自が分からない絵もあるので、デジタル資料を活用して出自を明らかにしたかった。それに、改めて絵にすることで新しいものができるのではないかと展示会を考えた」と振り返った。

川村さんは「北斎らの白黒の挿絵にさまざまな色を付けた。一度も見送り絵に使われていない絵もあるので、新たなねぷた制作の参考にしてもらえれば」と話し、プロジェクトの代表で同大教職大学院教授の瀧本壽史さん(64)は「デジタル資料などを通して、ねぷたの歴史や文化への理解を深めてほしい」と来館を呼び掛けた。

展示会は6日午後3時まで。入場無料。

＊これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

（第3種郵便物認可）　2020年(令和2年)2月5日（水曜日）

国文研 千年の旅

よみがえる北斎の美

『頼豪阿闍梨恠鼠伝』

（らいごうあじゃりかいそでん）

弘前市で昨年10月上旬の3日間、「津軽デジタル風土記　ねぷた見送り絵リブート！」と題した展示を行った。当館と弘前大学をはじめとした諸機関の共同プロジェクトで、津軽関連の史資料をデジタルアーカイブしながら観光資源として有効活用する道を探る「津軽デジタル風土記」の成果の一環である。

弘前の「ねぷた」は、青森市などの人形「ねぶた」（組ねぶた）のような立体構造物とは異なり、2次元の絵が描かれる扇ねぷたが中心となる。その表面の「鏡絵」には武者など勇壮な絵が描かれることが多いのに対し、裏面の「見送り絵」は女性像が主たる画題となる。

弘前市在住のねぷた絵師が描き下ろした見送り絵。元の絵は葛飾北斎の「葎戸」

弘前のねぷた絵の歴史をひもとくと、その素材には葛飾北斎やその弟子が描く水滸伝や伝奇小説の挿絵が多く使用されてきた。そこで今回は、そのようなねぷた絵作成プロセスのDNAを継承し、デジタル画像化された北斎らの女性像にもとづき、新たな見送り絵を創出しようと、弘前市在住のねぷた絵師・川村岩山氏に30点の色紙として描き下ろしていただいた。

今回掲げたのは、江戸時代に盛んに出版された「読本（よみほん）」と呼ばれる伝奇小説の一つ『頼豪阿闍梨恠鼠伝』（曲亭馬琴作、文化5年＝1808年刊）に登場する「葎戸（むぐらど）」というキャラクター。元の絵は葛飾北斎の手によるもので、末尾のQRコードを読み込むとデジタル画像で原画を閲覧することができる。

両者を比較すると、装いも新たによりシャープな印象のねぷた絵として、魂が吹き込まれているのがお分かりいただけると思う。弘前の展示でも、QRコードを介し、元絵のデジタル画像をその場で参照できるようにしたところ、来場者から高い評価をいただくことができた。デジタル化により古典籍との距離がぐんと縮まったことで、今後もいろいろな場面に活用されることが予想され、期待はふくらむばかりである。

「葎戸」などは、当館で開催中の企画展「書物で見る日本古典文学史」（3月31日まで）で展示中。元絵の古典籍が国文研に所蔵されているものについては、ねぷた絵とともに展示し、じかに比較することができるので、ぜひ足を運んでいただきたい。

（准教授　木越俊介）

◇

国文学研究資料館のホームページはhttps://www.nijl.ac.jp/

＊これらの画像は、本書に限って読売新聞社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

（2）津軽デジタル風土記プロジェクト関連イベント写真

①「津軽デジタル風土記の構築」覚書の締結記念講演会（二〇一七年七月一五日（於）弘前大学

津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト

樋口(ひのくち)土場

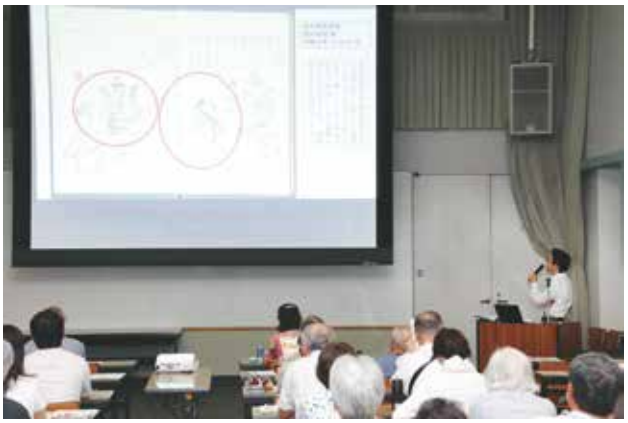
津軽の魅力と文化を世界に発信！

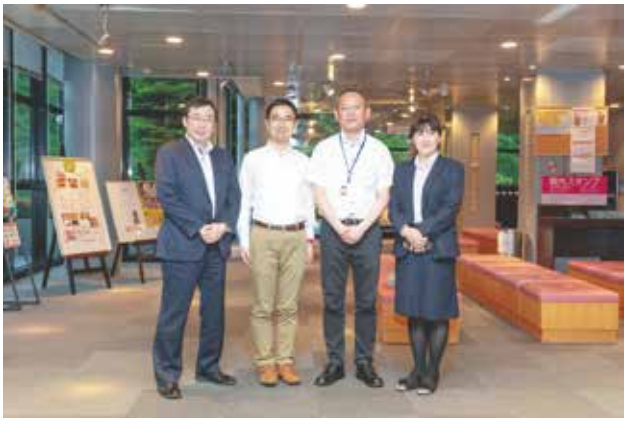
世界に発信！

津軽の魅力と文化を世界に発信！

近世津軽
・岩木川・弘前城下

②津軽ひろさき検定・出前講座（二〇一八年六月二三日（於）弘前市立観光館）





「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト

津軽デジタル風土記は、「本州最北端の風土記」をコンセプトとして、津軽の魅力を世界に発信していくプロジェクトです。古典籍や歴史資料などには、津軽に生きた人々の多彩な思想・言説や生活世界がいきいきと記されています。国文学研究資料館が撮影した新日本古典籍総合データベースの歴史的典籍画像を活用しつつ、デジタル空間において情報を体系的に連結し、新たな地域の価値を創出します。津軽デジタル風土記の試みは、全国に先駆けたモデル事業となります。

講演者
国文学研究資料館長
ロバート キャンベル 氏
Robert Campbell

国文学研究資料館長。日本文学研究者で、近世・近代日本文学が専門。特に19世紀（江戸後期～明治前半）の漢文学と、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビのMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載やラジオなど、多くのメディアで活躍中。ニューヨーク市生まれ。ハーバード大学大学院博士課程修了、文学博士。前任は東京大学大学院総合文化研究科教授。『読むことの力―東大駒場連続講義―』（講談社）など著書多数。

講演者
弘前大学名誉教授
長谷川（はせがわ） 成一（せいいち） 氏

弘前大学名誉教授。日本史研究者で、近世史が専門。北日本における幕藩体制が研究テーマ。弘前藩の研究における第一人者で、青森県史、新青森市史、新編弘前市史などの編纂を行い、地方史研究の発展に大きく貢献している。秋田県由利本荘市出身。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了、文学博士。東京大学史料編纂所助手、弘前大学教授、弘前市立博物館長を歴任。平成28年に青森県文化賞受賞。『近世国家と東北大名』（吉川弘文館）など著書多数。

文献観光資源学　「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト推進に関する覚書の締結記念講演会

津軽の魅力と文化を世界に発信！

― 古典籍・歴史資料のデジタル公開に向けて ―

日 時　平成29年 7月 15日（土）　13:00～15:50
入場無料　申込不要

会 場　弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール【先着250名】

第1部　13:00～13:50

「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト
推進に関する覚書締結式　等

第2部　14:00～15:50

覚書締結記念講演

森林資源の活用から見た近世津軽
―白神山地・岩木川・弘前城下―
弘前大学名誉教授　長谷川 成一 氏

『弘前藩庁日記』に刻まれた江戸のリアリティ
国文学研究資料館長　ロバート キャンベル 氏

問合せ
弘前大学教育学部 総務グループ内 「津軽デジタル風土記」講演会係
TEL　0172-39-3325・3326　FAX　0172-32-1478
MAIL　tsugarudejitaru@hirosaki-u.ac.jp

主 催　大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館　弘前市教育委員会　青森県立郷土館
国立大学法人弘前大学教育学部　国立大学法人弘前大学人文社会科学部
後 援　青森県文化財保護協会　青森県民俗の会　東奥日報社　陸奥新報社　FMアップルウェーブ
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館　弘前大学

文献観光資源学　「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト推進に関する覚書の締結記念講演会

津軽の魅力と文化を世界に発信!

― 古典籍・歴史資料のデジタル公開に向けて ―

プログラム

第１部　「覚書」締結式　13:00～13:50

■ **開会の挨拶**

弘前大学理事（研究担当）・副学長　郡　千寿子

■ **歴史的典籍NW事業における文献観光資源学の取組**

国文学研究資料館副館長　谷川　惠一

■ **「津軽デジタル風土記」構築への取組**

弘前大学教職大学院教授　瀧本　壽史

■ **「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト推進に関する覚書の締結**

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館長
弘前市教育委員会教育長
青森県立郷土館長
国立大学法人弘前大学教育学部長
国立大学法人弘前大学人文社会科学部長

第２部　覚書締結記念講演　14:00～15:50

■ **森林資源の活用から見た近世津軽 ―白神山地・岩木川・弘前城下―**

弘前大学名誉教授
長谷川　成一　氏

■ **『弘前藩庁日記』に刻まれた江戸のリアリティ**

国文学研究資料館長
ロバート キャンベル　氏

■ **閉会の挨拶**　弘前大学教育学部長　戸塚　学

会場案内

駐車場は、正門からは入れませんのでご注意下さい。

弘前大学創立50周年記念会館　１階
みちのくホール　（弘前市文京町１番地）

- 会場の都合で先着250人とさせていただきます。
  当日、入場できない場合はご了承下さい。
- 駐車場は限りがありますので、できるだけ公共機関をご利用下さい。

「津軽ひろさき検定」開催10周年記念企画

津軽デジタル風土記プロジェクト
出前講座

－貴重な津軽の歴史文化資料デジタル公開－

★津軽デジタル風土記プロジェクトとは？

弘前大学や人間文化研究機構国文学研究資料館（東京都、ロバート・キャンベル館長）との共同事業で、津軽に関する歴史資料をデジタル化し、文献資料が持つ地域の歴史や文化に関する情報を公開することによって、地域資源・観光資源として活用していこうという新しい試みです。
今回の出前講座は、オムニバス形式で3つのテーマを取り上げます。貴重な資料を一緒に見ながら、津軽の歴史や文化を「資料」を通じて勉強してみたいと思います。
興味のある方はぜひご来場ください。

津軽ひろさき検定 表彰式　16:00～

Ⅰ 津軽の中の弘前　16:15～
－弘前市立図書館等の絵図を見ながら－
弘前大学教職大学院
教授　瀧本　壽史　氏

Ⅱ 武者絵ウォッチング　16:55～
－ねぷた絵の型（モデル）をさかのぼる－
国文学研究資料館 研究部
准教授　木越 俊介　氏

Ⅲ お殿様の教養　17:35～
－津軽藩主の和歌をめぐって－
弘前大学人文社会科学部
教授　渡辺　麻里子　氏

2018年 6月23日（土）

開場　15:30～
講座　16:00～18:15

弘前市立観光館 多目的ホール

〒036-8588　弘前市下白銀町2-1 TEL0172-37-5501

入場無料
【定員:100名】

事前申込み順により、先着100名様までとさせていただきます。

◆電話申込み番号　:0172-35-3131
◆FAX申込み番号　: 0172-35-3132
◆E-mail　申込みアドレス　htcb09@jomon.ne.jp

裏面の申込み書に必要事項を記入し、上記いずれかの方法で弘前観光コンベンション協会へお申込みください

主催：公益社団法人弘前観光コンベンション協会
共催：歴史的典籍NW事業・文献観光資源学「津軽デジタル風土記」プロジェクト（2017～19年度）

お問い合わせ先◆公益社団法人弘前観光コンベンション協会　036-8588　弘前市下白銀町2-1　TEL 0172－35－3131

津軽デジタル風土記
ねぷた見送り絵リブート！
～デジタルアーカイブからよみがえる北斎の女たち～
葛飾北斎画
川村岩山画
入場無料
会場
ギャラリー森山
〒036-8228
青森県弘前市樹木2丁目20−2
電話：0172-35-6787
期間
2019年
10月4日(金)～6日(日)
10:00～16:00
(但し最終日は15:00閉場)
主催 弘前大学・人間文化研究機構国文学研究資料館
事業主体 歴史的典籍ＮＷ事業　異分野融合共同研究（文献観光資源学）「津軽デジタル風土記の構築」
後援 青森県教育委員会・弘前市教育委員会・東奥日報社・陸奥新報社・NHK 青森放送局・RAB 青森放送・ATV 青森テレビ・ABA 青森朝日放送
国文学研究資料館
弘前大学
国文学研究資料館蔵『頼豪阿闍梨怪鼠伝』

津軽まちあるき博覧会2018
FUKAGU ASAGU
ふかぐ、あさぐ
9/1(土)-10/31(水)
期間中 随時開催！ 詳しくはホームページで！
www.machi-aruki.sakura.ne.jp
※コースNo.は、ホームページのNo.と連動しています。
本格ねぷたうちわ制作体験（スイーツセット付き）
農家蔵 農家庭園巡り
いながだでの田舎あるぎ
〈田んぼアートコース スペシャル〉
PRESENT
津軽まちあるき博覧会
謹製コットンバッグあげるよ★
弘南鉄道沿線を宝探し！
【大鰐線編】
いいでば大鰐！いで湯の郷の魅力発見まちあるき
北津軽も楽しいよ！
鶴の舞橋ぶらから散歩
鶴田町ツルをたずねて街歩き
いたやなぎ「まち」ぶらり

9:30~14:30(約5時間)

秋田県との県境にある、高さ24m・周囲74mの巨岩「石の塔」を知っていますか？ 地域では「天から降ってきた神様」と信仰され、パワースポットとしても注目されています。その大きさを自分の目で確かめて♪

〔コース〕縄come→石の塔→縄come〔予約〕実施日の5日前まで〔料金〕お一人様3,000円(税込)※縄come入浴券付(貸タオル有・別途250円)〔定員〕2~3名(ガイド1名につき)〔集合〕縄come〔ガイド〕OH!!縄 元気隊(日本山岳ガイド協会認定ガイド)〔問〕大鰐温泉観光案内所TEL.0172-88-6690

TSUGARU DEEP WALK EXPO

津軽まちあるき博覧会2018

9/1-10/31

スペシャル

期間・日時限定のスペシャルツアーです

www.machi-aruki.sakura.ne.jp

コースNo.は、ホームページのNo.と連動しています。

弘前市 コースNo.535

スペシャル 講座

津軽デジタル風土記プロジェクト共同企画講座

絵図を見ながら弘前城下を空想散歩

〔日時〕9/22(土)

13:00~14:30(約90分)

絵図や古文書をひもときながら、弘前城下の移り変わりや、いにしえの「弘前」の歴史に思いを馳せてみませんか？

〔場所〕弘前市民参画センター〔参加料〕無料〔参加申込方法〕お電話またはHPで〔申込締切〕先着40名まで〔講師〕弘前大学教育学部 教授 瀧本壽史氏〔問〕弘前観光コンベンション協会TEL.0172-35-3131

博覧会 スペシャル企画！ コースNo.601

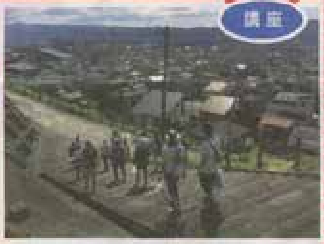
スペシャル 講座

日本全国まちあるきアレコレ 〔日時〕9/27(木) 18:00~19:30(約90分)

新潟市「ブラニイガタ」を探れ！

全国には様々なスタイルの「まちあるき」コンテンツがあり、各地で盛り上がりを見せています。新潟市では、多様なテーマを基に新潟県内をくまなく回る郷土再発見型の「ブラニイガタ」というまちあるきが行われており、地元参加者はもちろん噂を聞きつけた全国のまちあるきファンの参加も増えているそうです。今回は「ブラニイガタ」の取組から新潟スタイルのまちあるきを学びます。

〔場所〕弘前市立観光館1階多目的ホール〔参加料〕無料〔参加申込方法〕お電話またはHPで！〔申込締切〕9月26日〔講師〕NPO法人まちづくり学校 事務局長 山賀昌子氏〔問〕津軽まちあるき観光推進実行委員会(弘前観光コンベンション協会内)TEL.0172-35-3131



弘前市 コースNo.536

スペシャル

まちの記憶〈歩くヒストリービン〉第3弾

弘前煉瓦物語

〔日時〕9/30(日) 9:15~12:15(約3時間)

古地図や古写真を片手に現代の街並みに残る〈歴史の痕跡〉を探るシリーズの第3弾は、吉野町煉瓦倉庫を作った福島藤助氏の幻の煉瓦工場跡地、変電所、陸軍第八師団の煉瓦建造物跡等を歩いて巡り、弘前にある煉瓦建造物の歴史を辿ります。

〔コース〕弘南鉄道小栗山駅→福島藤助煉瓦工場跡地→騎兵第八連隊跡地→歩兵第52連隊跡地→聖愛中高前駅→弘前学院大前駅→変電所→富名腰酒造→弘前愛成病院→福島藤助邸宅跡→長谷倶楽部跡→吉野町緑地〔予約〕実施日の3日前まで〔料金〕お一人様1,500円(税込)※行程中の電車代金(210円)は含まれていません。〔定員〕15名まで〔集合〕弘南鉄道大鰐線 小栗山駅〔ガイド〕弘前路地裏探偵団 団長 鹿田智嵩氏〔問〕弘前観光コンベンション協会TEL.0172-35-3131

弘前市 コースNo.537

スペシャル

津軽デジタル風土記プロジェクト共同企画

弘前の仏教を探るまちあるき

〔日時〕10/20(土)

13:00~16:00(約3時間)

銅屋町、新寺町界隈の寺院を弘前大学の渡辺麻里子先生と巡り、歴史や文化を感じながら弘前の仏教について学びましょう。

〔コース〕最勝院、報恩寺、袋宮寺など〔予約〕実施日の3日前まで〔料金〕お一人様2,000円(税込)※拝観料含む〔定員〕20名まで〔集合〕最勝院〔ガイド〕弘前大学人文社会科学部 教授 渡辺麻里子氏〔問〕弘前観光コンベンション協会TEL.0172-35-3131

弘前市 コースNo.042

今、弘前の雑貨屋がおもしろい！

弘前の代官山・代官町雑貨屋めぐり〈プチスイーツ付〉

〔日時〕通年

10:00~12:00(約2時間)

弘前で最近人気の可愛い雑貨屋さん。センス抜群な個性あふれるお店が代官町・土手町界隈に続々誕生しています。プチスイーツで一息入れながらお気に入りのコンセプトの一軒を見つけてください。

〔コース〕弘前市まちなか情報センター→代官町周辺雑貨屋めぐり→プチスイーツ→土手町周辺雑貨屋めぐり(雑貨屋を5~7件程度めぐります)〔予約〕実施日の1週間前まで〔料金〕お一人様2,000円(税込)〔定員〕1名~4名〔集合〕弘前市まちなか情報センター〔ガイド〕たびすけ〔問〕たびすけ合同会社西谷TEL.0172-55-0268

弘前市 コースNo.046

スペシャル

たびすけの「まるごと」シリーズ

どてまちまるごと探検隊！

〔日時〕9/5~9/28の水・金曜日

10:00~12:00(約2時間)

弘前の中心商店街「土手町」。江戸時代にはお殿様も参勤交代に使った歴史ある土手町を、古地図片手に巡ります。明治時代からの老舗や教会、昭和の香り漂う喫茶店にも立ち寄りコーヒーブレイク。これであなたも弘前通！

〔コース〕まちなか情報センター→中土手町→蓬莱橋→下土手町→まちなか情報センター〔予約〕実施日の5日前まで〔料金〕お一人様3,000円(税込)※スイーツ&コーヒー付き〔定員〕10名まで〔集合〕まちなか情報センター〔ガイド〕たびすけ〔問〕たびすけ合同会社西谷TEL.0172-55-0268

弘前市 コースNo.015

スペシャル

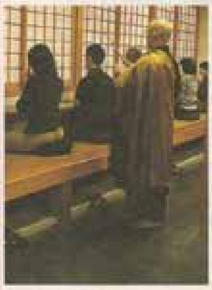
お寺がずらり 英気を養うヒーリング体験

禅林街界隈と坐禅体験

〔日時〕10/8(月・祝)

13:00~16:00

(約3時間)



曹洞宗33ヶ寺がずらりと立ち並ぶ"禅林街"は出城の機能を併せ持った、津軽藩ゆかりの寺院やスポットがたくさん残る場所。途中立ち寄る寺院で、心落ち着く坐禅体験を。日常を忘れ、無我の境地へ導かれて。

〔コース〕弘前市立観光館→栄螺堂→長勝寺→坐禅体験→弘前天満宮→大銀座→弘前市立観光館〔予約〕実施日の1週間前まで〔料金〕お一人様1,500円(税込)※拝観料含む・記念品付き〔定員〕20名まで(最少催行人数2名)〔ガイド〕弘前観光ボランティアガイドの会〔問〕弘前観光コンベンション協会TEL.0172-35-3131

弘前市 コースNo.017・018

弘前城の裏鬼門を守る地・お寺がずらり！

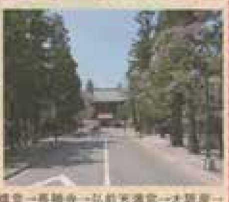
禅林街界隈寺町さんぽ

〔日時〕通年(約2時間)

午前 10:00~12:00

午後 13:30~15:30

曹洞宗33ヶ寺と杉並木がずらりと立ち並ぶ禅林街。厳かな雰囲気で、いるだけで不思議と心が落ち着きます。有事の際は第二の城としての機能を併せ持っていたこの地。今も残る往時の町割が歴史を物語ります。



〔コース〕弘前市立観光館→栄螺堂→長勝寺→弘前天満宮→大銀座→弘前市立観光館〔予約〕実施日の3日前まで〔料金〕お一人様1,000円(税込)〔定員〕毎回10名〔ガイド〕弘前観光ボランティアガイドの会〔問〕弘前観光コンベンション協会TEL.0172-35-3131 ※9/22~24はお休み

文献観光資源学「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト成果報告会

津軽の魅力と文化を世界に発信！

－古典籍・歴史資料のデジタル化と未来－

2020年 3月15日(日)

13:00～16:20（受付開始 12:00）　入場無料　申込不要

弘前大学創立50周年記念会館
みちのくホール（先着250名）

第一部　記念講演

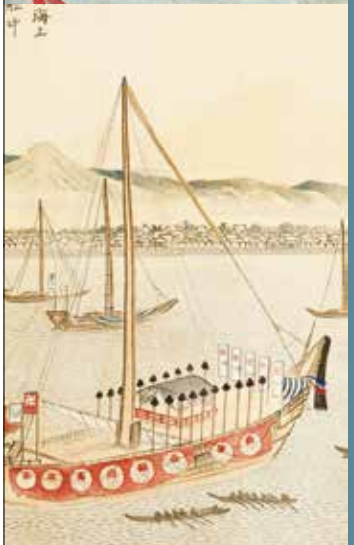
古典籍・歴史資料の
デジタル化と未来

国文学研究資料館　館長
ロバート キャンベル 氏

第二部「津軽デジタル風土記プロジェクト」成果報告

第三部　パネルディスカッション

「津軽における歴史資料デジタル化の現状と展望」



主催　大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
弘前市教育委員会　青森県立郷土館
国立大学法人弘前大学教育学部
国立大学法人弘前大学人文社会科学部

事業主体　歴史的典籍NW事業異分野融合共同研究（文化観光資源学）
「津軽デジタル風土記の構築」

後援　青森県教育委員会　青森県文化財保護協会　青森県民俗の会
東奥日報社　陸奥新報社　弘前観光コンベンション協会
NHK青森放送局　RAB青森放送　ATV青森テレビ
ABA青森朝日放送　FMアップルウェーブ

問合せ　弘前大学教育学部　総務グループ内「津軽デジタル風土記」成果報告会係
TEL　0172-39-3325　FAX　0172-32-1478
MAIL　tsugarudejitaru@hirosaki-u.ac.jp

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館　弘前大学

スケジュール

13:00　開会の辞

弘前大学人文社会科学部長　今井　正浩

13:05～13:50

第一部　記念講演

古典籍･歴史資料のデジタル化と未来

【講師】

国文学研究資料館　館長　ロバート　キャンベル 氏

日本文学研究者で、近世･近代日本文学が専門。特に19世紀（江戸後期～明治前半）の漢文学と、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビのMCやニュース･コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載やラジオなど、多くのメディアで活躍中。ニューヨーク市生まれ。ハーバード大学大学院博士課程修了、文学博士。『読むことの力―東大駒場連続講義―』（講談社）など著書多数。

（休憩10分）

14:00～15:00

第二部

「津軽デジタル風土記プロジェクト」成果報告

国文学研究資料館のNWデジタル事業

国文学研究資料館　副館長　谷川　恵一

「津軽デジタル風土記」概要

弘前大学教職大学院　教授　瀧本　壽史

「津軽デジタル風土記」活動報告

国文学研究資料館　准教授　木越　俊介

「津軽デジタル風土記」成果報告

弘前大学人文社会科学部　教授　渡辺 麻里子

（休憩10分）

15:10～16:10

第三部　パネルディスカッション

「津軽における歴史資料デジタル化の現状と展望」

【パネリスト】

国文学研究資料館　館長　ロバート　キャンベル 氏

青森県立郷土館　副館長兼学芸課長　古川　実 氏

弘前市教育委員会生涯学習課
図書館･郷土文学館運営推進室長　庄司　輝昭 氏

弘前市教育委員会高岡の森弘前藩歴史館
主幹兼運営係長兼学芸員　鶴巻　秀樹 氏

弘前市教育委員会文化財課
主幹兼文化財保護係長　小石川　透 氏

【司会進行】

弘前大学人文社会科学部　教授　渡辺 麻里子

16:10　閉会の辞

弘前大学　理事（研究担当）　郡　千寿子

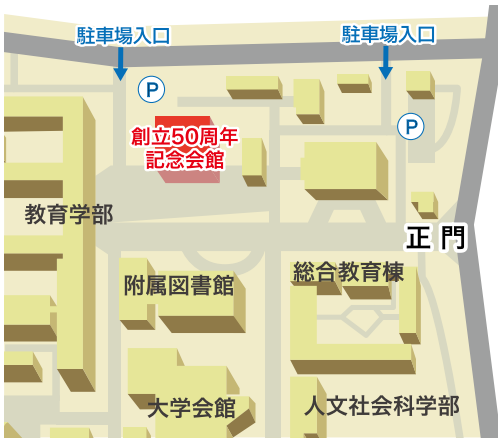
開催趣旨

2017年度から2019年度の3年をかけて、弘前大学と国文学研究資料館が共同で津軽の古典籍・歴史資料のデジタル化を推進してきた「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクトの成果を報告します。また、国文学研究資料館のロバートキャンベル館長をお迎えして、「古典籍・歴史資料のデジタル化と未来」を考える講演とフォーラムを開催します。

「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト

「津軽デジタル風土記」は、「本州最北端の風土記」をコンセプトに、津軽の魅力を世界に発信していこうと、全国に先駆けて行うモデル事業です。津軽の古典籍や歴史資料には、津軽に生きた人々の多彩な思想や生活世界がいきいきと記されていました。今回、国文学研究資料館が撮影した画像を活用し、デジタル空間において情報を体系的に連結して、新たな津軽の価値を創出するプロジェクトです。

会場案内



駐車場は、正門からは入れませんのでご注意下さい。

弘前大学創立50周年記念会館　1階
みちのくホール　（弘前市文京町1番地）

- 会場の都合で先着250人とさせていただきます。
  当日、入場できない場合はご了承下さい。
- 駐車場は限りがありますので、できるだけ公共機関をご利用下さい。

『津軽デジタル風土記資料集』執筆者紹介

＊氏名／ふりがな／所属／主要業績など

【概説編】（共同研究者）

谷川　惠一（たにかわ　けいいち）
国文学研究資料館　副館長　教授
国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター長
・『言葉のゆくえ―明治二〇年代の文学―』（平凡社、一九九三年）
・『歴史の文体　小説のすがた　明治期における言説の再編成』（平凡社、二〇〇八年）

木越　俊介（きごし　しゅんすけ）
国文学研究資料館研究部　准教授
・『江戸大坂の出版流通と読本・人情本』（清文堂出版、二〇一三年）
・『諸国奇談集（江戸怪談文芸名作選五）』（共編、国書刊行会、二〇一九年）

瀧本　壽史（たきもと　ひさふみ）
弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）　教授
・共編著『三陸海岸と浜街道』（街道の日本史5、吉川弘文館、二〇〇四年）
・「蝦夷錦をめぐる社会史」（共編著『北方社会史の視座　歴史・文化・生活　第一巻』清文堂、二〇〇七年）

渡辺　麻里子（わたなべ　まりこ）
弘前大学人文社会科学部　教授
・「隣松寺蔵『久祥院殿写経』（仮名書き法華経）をめぐる一考察―付【翻刻】隣松寺蔵『久祥院殿写経』第一冊（序品第一・方便品第二）―」（弘前大学人文社会科学部『人文社会科学論叢』三、二〇一七年八月）
・「地域における書物の集成―弘前藩主の所持本から地域の「知の体系」を考える―」（『資料学の現在』シリーズ日本文学の展望を拓く5、笠間書院、二〇一七年）

【解題編】執筆順

佐藤　良宣（さとう　よしのぶ）
青森県立郷土館　学芸主幹
・共編著『新青森市史　通史編第三巻　近代』第一章第二節、第二章第五節の各一部、『新青森市史　通史編第四巻　現代』第三章第二節（以上、青森市、二〇一六年）
・「明治期前半の青森県における鉄道建設に関する動向について」（『青森県立郷土館研究紀要』四一青森県立郷土館、二〇一七年）

滝本　敦（たきもと　あつし）
青森県立郷土館　研究主査

古川　実（こがわ　みのる）
青森県立郷土館　副館長（兼学芸課長）
・共編著『東通村史　民俗・民俗芸能編』（東通村、一九九七年）
・共編著『新青森市史　別編3　民俗』（青森市、二〇〇八年）

小山　隆秀（おやま　たかひで）
青森県立郷土館　主任学芸主査
弘前大学人文社会科学部非常勤講師・客員研究員
・「岩木山信仰形成における宗教者の役割と習俗の変化」（青森県環境生活部文化・スポーツ振興課県史編さんグループ編『青森県史研究』八、青森県、一九九三年）
・「「伝統」の希求と創出―青森県津軽地方のねぷた喧嘩習俗を事例として―」（『国立歴史民俗博物館研究報告　第二〇五集　［共同研究］民俗儀礼の変容に関する資料論的研究』国立歴史民俗博物館、二〇一七年）

増田　公寧（ますた　きみやす）
青森県立郷土館　学芸主査

太田原　慶子（おおたはら　けいこ）
青森県立郷土館　主任学芸主査
・「新収蔵資料紹介　蓑虫山人筆屏風―浪岡全景図屏風を中心に」（『青森県立郷土館研究紀要』四十一、青森県立郷土館、二〇一七年）
・「成田コレクション『櫻花聚品』について」（『青森県立郷土館研究紀要　第四十二号』青森県立郷土館、二〇一八年）

北上　真生（きたがみ　まさお）
弘前市立博物館　主事兼学芸員
・『日本古典文学の方法』（共著、新典社、二〇一五年一月）

齋藤　明日美（さいとう　あすみ）
弘前市立博物館　主事兼学芸員

三上　幸子（みかみ　さちこ）
弘前市立博物館　主事兼学芸員
・『津軽家の雛道具』（弘前市立博物館郷土歴史シリーズ2、二〇一六年）
・『竹森節堂ねぷた絵草稿』（弘前市立博物館郷土歴史シリーズ3、二〇一七年）

鶴巻　秀樹（つるまき　ひでき）
弘前市教育委員会高岡の森弘前藩歴史館　主幹兼運営係長兼学芸員
・共編著『弘前市立博物館所蔵資料調査報告書　津軽家印章・糸印』（弘前市立博物館、二〇〇八年）
・「殿様の印鑑」（長谷川成一監修『弘前城築城四百年　城・町・人の歴史万華鏡』清文堂出版、二〇一一年）

澁谷　悠子（しぶや　ゆうこ）
弘前市教育委員会高岡の森弘前藩歴史館　主事兼学芸員
・「墓石の普及と地域性―北海道・東北地方―」（『季刊考古学』一四九、二〇一九年）
・「近世後期蝦夷地における他国者の埋葬・供養をめぐる意識―福山城下・弘前城下の比較を通じて―」（『歴史』一二〇、二〇一三年）

福井　敏隆（ふくい　としたか）
弘前市文化財審議委員長
・「弘前藩の蝦夷地警備と青森妙見堂―発見された大星神社の鰐口は何をかたるか―」（『弘前大学国史研究』一四〇、弘前大学国史研究会、二〇一六年）
・「二つの児玉家、岩槻藩と弘前藩の児玉家―児玉南柯と児玉武七について―」（『弘前大学国史研究』一四二、弘前大学国史研究会、

二〇一七年）

小石川　透（こいしかわ　とおる）

弘前市教育委員会文化財課　主幹兼文化財保護係長

・「盛岡藩における銅山直轄経営について―藩財政との関りから―」（『弘前大学国史研究』一〇九、弘前大学国史研究会、二〇〇〇年）

・「弘前藩における城郭修補申請の基礎的考察」（長谷川成一編『北奥地域史の新地平』岩田書院、二〇一四年）

【ねぷた編】

川村　岩山（かわむら　がんざん）　本名　川村伸明（のぶあき）

ねぷた絵師

一九六六年　故長谷川達温の門下となり、ねぷた絵を手がける。

・二〇〇九年、二〇一〇年、二〇一九年にねぷた色紙個展開催。

・ブログ「ねぷた（弘前・津軽）の話」において、ねぷた絵の歴史や様式、素材について探究発表している。

【教育活動編】（学年・あいうえお順）

弘大翻刻部（弘前大学公認学生サークル）

寺本　日翠　人文社会科学部四年
前田　瑞穂　人文社会科学部四年
稲見　ののか　人文社会科学部三年
折茂　咲也加　人文社会科学部三年
川上　実穂子　人文社会科学部三年
渋谷　ひな乃　人文社会科学部三年
白戸　あかり　人文社会科学部三年
山村　優　人文社会科学部三年
寺本　碧季　人文社会科学部二年
和賀　葵　人文社会科学部二年
藤田　真由　人文社会科学部一年
八木　大地　理工学部一年　他の皆さん

（サークル顧問　渡辺麻里子）

『津軽デジタル風土記資料集』の構成

【巻頭言】

最初に、津軽デジタル風土記プロジェクトの共同研究を実施した、弘前大学を代表して理事（研究担当）の郡千寿子先生、国文学研究資料館を代表して副館長の谷川惠一先生よりご挨拶文をいただいた。

【概説編】

概説編では、津軽デジタル風土記プロジェクトの共同研究者を代表し、国文学研究資料館から谷川惠一副館長と、弘前大学から瀧本壽史教員が、それぞれの立場から概説を記した。谷川惠一氏は、国文学研究資料館が行っている「歴史的典籍ＮＷ（ネットワーク）事業・異文化融合共同研究」という大きな枠組みからの視点で、今回弘前で展開した「文献観光資源学「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト」の位置づけなどを解説した。また瀧本壽史氏は、「津軽デジタル風土記」のコンセプトや概要を述べ、実際の実施内容を解説した。また「津軽デジタル風土記」で撮影した資料一覧を紹介した。

【解題編】

解題編では、津軽デジタル風土記が対象にした、青森県立郷土館、弘前市立博物館、高岡の森弘前藩歴史館、弘前市立弘前図書館の四つの機関が所蔵する三十八点の資料について、十五名の専門家が解題を執筆した。青森県立郷土館からは一二点、弘前市立博物館から六点、個人蔵が一点、高岡の森弘前藩歴史館から七点、弘前市立弘前図書館から一二点、合計三十八点を取り上げた。「津軽デジタル風土記」では、「本州最北端に生きた人々」をサブテーマに、津軽・北の思想と言説世界を示す資料、津軽・北の自然と生活世界を示す資料をコンセプトに選んだ。『青森県史』や『新編弘前市史』に取り上げられている著名な資料を優先し、その他、①藩主・藩士の知、②学問と文芸、③歴史編纂、④生活の知、⑤生活の記録と図絵、⑥信仰と宗教、⑦祭礼と芸能、⑧自然災害と飢饉、という八つのテーマに関わる資料を選んだ。解説は、それぞれの専門の立場から資料紹介を行った。また各資料の特徴的な部分について、図版の掲載を行った。

【ねぷた編】

ねぷた絵編は、現行の弘前ねぷたの見送り絵について、典拠とその展開を検証した。「ねぷた見送り絵プロジェクト」では、川村岩山氏の色紙絵と、原拠となった近世期の物語絵・武者絵と並べて掲載することによりその展開を明らかにした。また川村岩山氏が、弘前ねぷたの見送り絵の制作について、歴史や素材、作成方法など様々な面から解説した。

【活動報告編】

活動報告編では、津軽デジタル風土記の三年間にわたる活動についてその活動全体の報告を木越俊介氏が記した。また渡辺が、二〇一八年一〇月に、弘前コンベンション協会と連携して行った「津軽まちあるき博覧会」での活動について報告した。

【学生活動編】

学生活動編では、弘前大学の公認学生サークルである「弘大翻刻部」の学生が、サークル活動の成果報告を行った。津軽デジタル風土記で公開する弘前市立弘前図書館蔵『発句合外濱名所双六』の翻刻と解説を行い、また国文学研究資料館蔵津軽家文書のうち『津軽信義公道中御詠歌』の翻刻を行った。またサークル顧問の渡辺が、それぞれ解題を記した。

【付録編】

巻末の付録には、以下のものを載せた。「（1）津軽デジタル風土記プロジェクト関連新聞記事」は、津軽デジタル風土記プロジェクトの活動について紹介された新聞記事を一覧掲載した。「（2）津軽デジタル風土記プロジェクト関連イベント写真」は、津軽デジタル風土記プロジェクトで行った主なイベントについて、その活動記録としての写真を掲載した。「（3）津軽デジタル風土記プロジェクト関連イベントポスター・チラシ」は、津軽デジタル風土記プロジェクトが実施したイベントのポスター・チラシを一覧掲載した。最後に、資料集の執筆者紹介と、編集後記を掲載した。

表紙写真は、今回資料集に掲載した資料の一部を掲載したものである。表表紙右上から、使用した図版は以下の通りである。

①青森県立郷土館蔵『東奥津軽山里海観図』より「お山参詣図」
②青森県立郷土館蔵『合浦山水観　西浜』「十二池」の図
③青森県立郷土館蔵『東奥津軽山里海観図』より「春の賑わい」の図
④青森県立郷土館蔵『外ヶ浜奇勝』
左上から⑤弘前市立博物館蔵『陸奥勝景道中絵図』
⑥青森県立郷土館蔵『東奥津軽山里海観図』より「ねぷた祭り」の図
⑦青森県立郷土館蔵『津軽図譜』第一「青森海上泛船船中眺望図」
⑧青森県立郷土館蔵『東奥津軽山里海観図』より「斧氷砕」の図
裏表紙上部⑨青森県立郷土館蔵『蝦夷地図』
右中⑩弘前市立博物館蔵『御国縮図並弘前同其外所々之図』「弘前之図」
右下⑪青森県立郷土館蔵『東奥津軽山里海観図』より「雪踏」の図
左中⑫青森県立郷土館蔵『津軽図譜』第四「善知鳥図」
左下⑬高照神社蔵・高岡の森弘前藩歴史館寄託『信政公葬送図絵巻』

編集後記

監修・編集　瀧本　壽史

本資料集に掲載した資料を改めて見直してみると、今まで気づかなかったことや、似たようなものが複数の機関に所蔵されていることの多さに驚いています。

そこで思い浮かんだのが「徒然草」五十二段の「すこしのことにも先達はあらまほしきことなり」という言葉です。仁和寺のある法師が、長年参拝したいと思っていた石清水八幡宮に一人で詣で、麓の末社を参拝して帰ってしまった。岩清水に参拝するのが本来の目的だから山上まで行かなかったと仲間に語った、という例の有名な話です。石清水八幡宮は山の上にあったのです。

岩清水八幡宮という本社の麓には様々な末社があり、そこをたどって教え導く「先達」がいなければ神を拝むことも叶わない。本書は、津軽の魅力や奥深さを知る上で、大きく目を開かせてくれる「先達」でありたいと思っています。

本プロジェクトの目的は歴史的史資料が単独で存在するものではなく、それが関連づけられ体系化されることで新たな発見があるということを、デジタル空間で示そうということにありました。津軽という大きな峰の踏破を志す皆様も、本書を「先達」として、行ったり来たりしながら津軽を楽しんでいただければと思います。そこに各所蔵機関の垣根はありません。

本プロジェクトと本書の執筆に関わっていただいた全ての方々に深く感謝申し上げます。

編集後記

編集　渡辺麻里子

本資料集の編集作業を通じ、改めて津軽にある文献資料の豊富さを実感しました。先人達が遺してくれたこれほどまでに多くの文化資源を、私たちには未来に伝える責任があります。そのために私たちはまず、自分自身がこれらの資料を知る必要があると思います。

「津軽デジタル風土記」プロジェクトでは、津軽を知るためにふさわしい資料を選び、デジタル撮影して公開しました。本資料集では、デジタル公開する資料の中から特にお勧めの、津軽を知るために最もふさわしい資料、注目したい資料を取り上げています。専門の方に執筆を依頼し、各資料について、それぞれのご専門の立場から解説をしていただきました。様々な観点から、各資料の魅力が伝わってきます。解説に加えて、各資料ごとに写真図版も掲載しました。合わせて御覧下さい。

さっとめくっていくだけでも、様々な種類の資料があることがわかります。津軽の絵画資料では、菅江真澄や平尾魯仙はよく知られていますが、それ以外にも、多くの絵画資料があることがわかります。このような素晴らしい資料の存在を、本資料集を機会に、一人でも多くの方に知っていただき、活用していただけたらと思います。

なお本資料集に紹介した資料の他、本プロジェクトで撮影した資料（九頁撮影リスト参照）は、すべて全冊撮影し、国文学研究資料館のデータベースで公開されます。資料集の掲載写真は、各資料の部分掲載ですが、ＷＥＢ上では全頁公開していますので、本資料集に掲載していない頁については、ＷＥＢ上で御覧ください。またＷＥＢ上では、自由に拡大することが可能です。絵図などの細かいところまで見ることが可能ですので、是非お試し下さい。

本プロジェクトは、国文学研究資料館が提案する「文献観光資料学」の全国初のモデルケースとして取り組みました。文献資料を、観光など社会に活かしていく試みです。津軽の豊かな文献資料を今後どう活用していくのかは、私たちの課題です。研究者のみならず、市民の皆様と一緒に考えていけたらと思います。そして、この津軽の素晴らしい資料を活用しながら、未来に伝えていきたいと思います。

津軽デジタル風土記プロジェクトは、私にとって、津軽の絵図資料・歴史資料を学ぶために大変貴重な機会でした。プロジェクトの三年間、弘前の藩政史がご専門の瀧本壽史先生に、津軽の歴史や資料について直接教えていただけたことは、何よりありがたく贅沢なことでした。また近世文学がご専門の木越俊介先生には、武者絵など様々なことを教えていただき、ねぷた絵を学ぶ良い機会となりました。その他、執筆・編集に際して、多くの方々から御教示を賜りました。誠にありがとうございました。

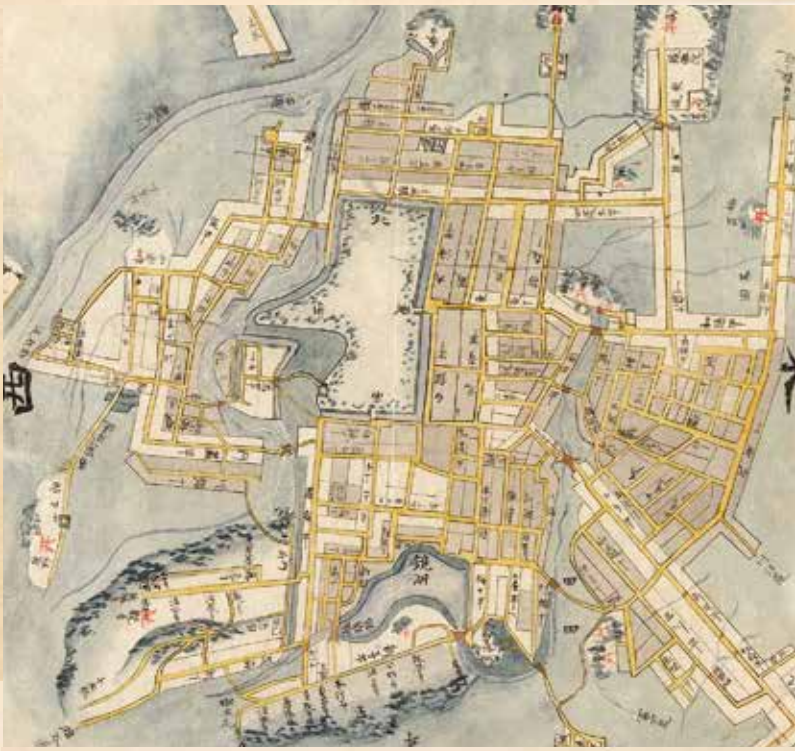
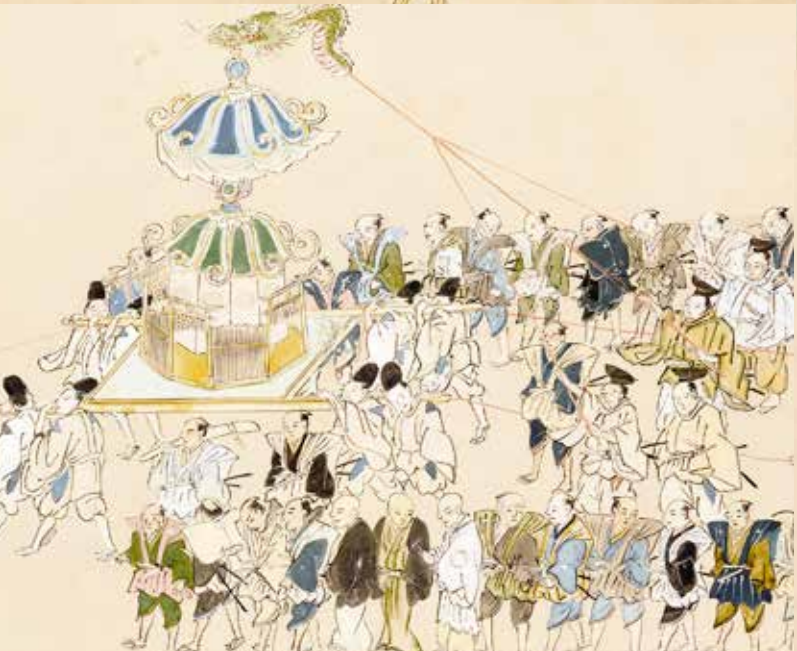
最後になりましたが、本資料集の刊行に協力くださった、すべての執筆者の皆様、所蔵者の皆様に御礼申し上げます。また、本資料集の制作にご協力くださった、ＭＦ　ＷＯＲＫＳ様、小野印刷所の皆様に、心より御礼申し上げます。

歴史的典籍ＮＷ事業　異分野融合共同研究
文献観光資源学「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト

津軽デジタル風土記資料集

――弘前大学・国文学研究資料館共同研究成果報告書――

発行日　二〇二〇年三月一三日
監修　瀧本壽史
編集　瀧本壽史・渡辺麻里子
著者　谷川惠一・瀧本壽史・佐藤良宣・滝本敦・古川実・小山隆秀・増田公寧・太田原慶子・北上真生・齋藤明日美・三上幸子・鶴巻秀樹・澁谷悠子・福井敏隆・小石川透・渡辺麻里子・木越俊介・川村岩山・弘前大学翻刻部
主催　弘前大学・人間文化研究機構国文学研究資料館
事業主体　歴史的典籍ＮＷ事業　異分野融合共同研究
（文献観光資源学）「津軽デジタル風土記の構築」
発行者　国立大学法人　弘前大学
〒〇三六―八五六〇
青森県弘前市文京町一番地
人間文化研究機構国文学研究資料館
〒一九〇―〇〇一四
東京都立川市緑町一〇―三
印刷・製本（有）小野印刷所
〒〇三六―八一七三
青森県弘前市富田町五二

・報告書の一部または全部を、著作権者の許可なしに、複製・転載することを禁じます。

第四
善知鳥圖
善知鳥祠中原揭
此圖野貞彦之画也
今縮寫之